関西福祉大学
スクラップ・切り抜き分　附属図書館
本学関連記事
2014年6月10日(火)

南三陸町魅力パンフに

東北被災地訪ね復興支援を

関西福祉大生ら若者10人が作成

東日本大震災の被災地を活気づけようと、関西福祉大学（赤穂市新田）の3年生田中一雄さん(20)ら全国各地の若者計10人が、宮城県南三陸町の魅力を伝えるパンフレット「まずもって、あづま～れ南三陸！」（B5判、24ページ）を作成した。（小林伸哉）

田中さんは同大の仲間と被災地支援を続けており、昨年夏からNHKの番組「東北発☆未来塾」に出演し南三陸町と被災地支援を続けた。

番組で「自分たちに何ができるか」と考え、出演者と南三陸町を支援する団体を設立した。同町で被災者と触れ合い、インターネットなどで資金を募り、パンフ4千部を印刷した。

半年がかりで完成したパンフの名前は、「とりあえず集まれ」を意味する宮城県の方言。表紙には、現地の漁師が澄んだ海や笑顔を描いた絵をデザインし、「笑顔で元気な私たちに会いに来てけさいん」と力強く生きる被災者の言葉、写真を豊富に載せた。

イクラやウニなど旬の海産物を盛る「キラキラ丼」や現地のラーメンなどを紹介。巨石や温泉などを1泊2日で巡る旅行ルートも提案する。同町を3回訪れた田中さんは「南三陸のみなさんは温かい。多くの人に訪れてもらい、復興につなげたい」と話す。

近く関西福祉大などに置き、無料で配る。送料実費で発送もする。田中さん☎090・7130・3777

南三陸町の魅力を伝えるパンフを手にする田中さん＝関西福祉大学

神戸新聞
2014.6.10

複写等はご遠慮ください。